

## 研究計画書

代表者：

Co-Author（いない場合は空欄でも可）：

施設名/診療科
共同研究者
過去の CVIT 誌引用履歴
研究テーマ（タイトル）
背景と目的（400 文字以内）
方法（1600 文字以内）
研究から期待できる医学への貢献
現在までの実績

上記研究内容に関連する論文業績

上記研究内容に関連する学会発表

## 履 歴 書（記載が枠を超える場合は追加してください）

氏名（漢字）	東京 太郎
氏名（ふりがな）	とうきょう たろう
性別	男
生年月日	1988年5月7日
現職	心臓大学 循環器内科 医長
住所	〒101-0005 東京都千代田区丸の内 1-1
電話	03-311-4040
E-mail	t-tokyo@umin.com

## 学歴及び職歴

日付	
2012年3月15日	心臓大学医学部卒業
2012年4月1日	心臓大学医学部附属病院 研修医
2014年4月1日	血管病院循環器内科 後期研修医
2016年4月1日	血管病院循環器内科 医員
2017年4月1日	アメリカ コロンビア大学 留学
2020年4月1日	血管病院循環器内科 医長

## 免許及び資格

日付	
2012年4月1日	医師免許（登録番号 111111号）
2019年9月1日	総合内科専門医（登録番号 10000号）
2020年10月1日	日本循環器学会専門医（登録番号 22222号）

## 学会活動等

名称	資格の有無
日本心血管インターベンション治療学会会員	認定医
日本内科学会会員	なし
日本循環器学会会員	なし

## 賞（受賞なしの場合はなしと記載）

日付	内容
2020年9月8日	日本血管学会 奨励賞

## 業績目録

## A. 原著（CVIT 誌は左枠に○を記載すること）

	Tokyo T, Osaka S, Nagoya F, Fukuoka K. Primary percutaneous coronary intervention inpatients with acute myocardial infarction. J Am Coll Cardiol 2018;72:1693-1697.
	Nagoya F, Tokyo T, Fukuoka K, Miyagi S. Drug-eluting stent implantation in bifurcation lesions. Circulation 2019;139:101-108.
○	Tokyo T, Akita N, Aomori Y. Drug-coated balloon in de novo lesions. Cardiovasc Interv Ther 2020;35:10-18.
	東京太郎、大阪士郎、名古屋文夫 高齢者における薬剤溶出性ステントの遠隔成績の検討. 日本臨床学会誌 2016;10:53-59.

## B. 症例報告・総説・その他

	Tokyo T, Osaka S, Nagoya T. A case with spontaneous coronary dissection. Am Gender J 2019;12:45-47.
	東京太郎、大阪士郎、福岡和也 急性心筋梗塞症後ステント血栓性閉塞を繰り返した一例 東京臨床学会誌 2016;8:23-24.

## C. 学会発表（CVIT 年次学術集会・地方会での発表は左枠に○を記載）

※特別講演・シンポジウムは筆頭演者のみ記載

## a. 特別講演・シンポジウム

	Tokyo T, Osaka S, Nagoya T. Spontaneous coronary dissection. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2019. September 26, 2019. Washington DC, USA.
○	東京太郎、大阪士郎、福岡和也. 透析患者における薬剤溶出性ステントの有効性 日本心血管インターベンション治療学会 2019. 9. 19. 愛知県名古屋市

## b. 一般発表

	Okaka S, Tokyo T, Nagoya T, Miyagi S. Ruptured plaque of ST-segment elevation inpatients with acute ST-segment myocardial infarction. Transcatheter CardiovascularTherapeutics 2019. September 27, 2019. Washington DC, USA.
	Tokyo T, Nagoya T, Miyagi S. Baseline and follow-up travascular ultrasound evaluationof non-culprit lesions in acute coronary syndrome. Transcatheter CardiovascularTherapeutics 2019. September 27, 2019. Washington DC, USA.
○	東京太郎、大阪士郎、福岡和也. 急性心筋梗塞患者における薬剤溶出性ステントの有効性 日本心血管インターベンション治療学会 2019. 9. 19. 愛知県名古屋市

## 筆頭あるいは共同著者の論文業績における CVIT 誌からの引用目録

筆頭あるいは共同著者の論文業績における CVIT 誌からの引用総数： \_\_\_\_\_ 編

うち、筆頭著者 \_\_\_\_\_ 編、 共同著者 \_\_\_\_\_ 編

引用した元論文名と発行 volume、ページ番号等、URL	引用先論文名と発行 Journal 名、volume、ページ番号等、URL Akita N, Aomori Y. Drug-coated balloon for in-stent restenosis. Cardiovasc Interv Ther 2017;32:12-18.
引用した元論文名と発行 volume、ページ番号等、URL	引用先論文名と発行 Journal 名、volume、ページ番号等、URL Aichi N, Iwate Y. Drug-eluting stent for in-stent restenosis. Cardiovasc Interv Ther 2016;31:22-25.
引用した元論文名と発行 volume、ページ番号等、URL	引用先論文名と発行 Journal 名、volume、ページ番号等、URL